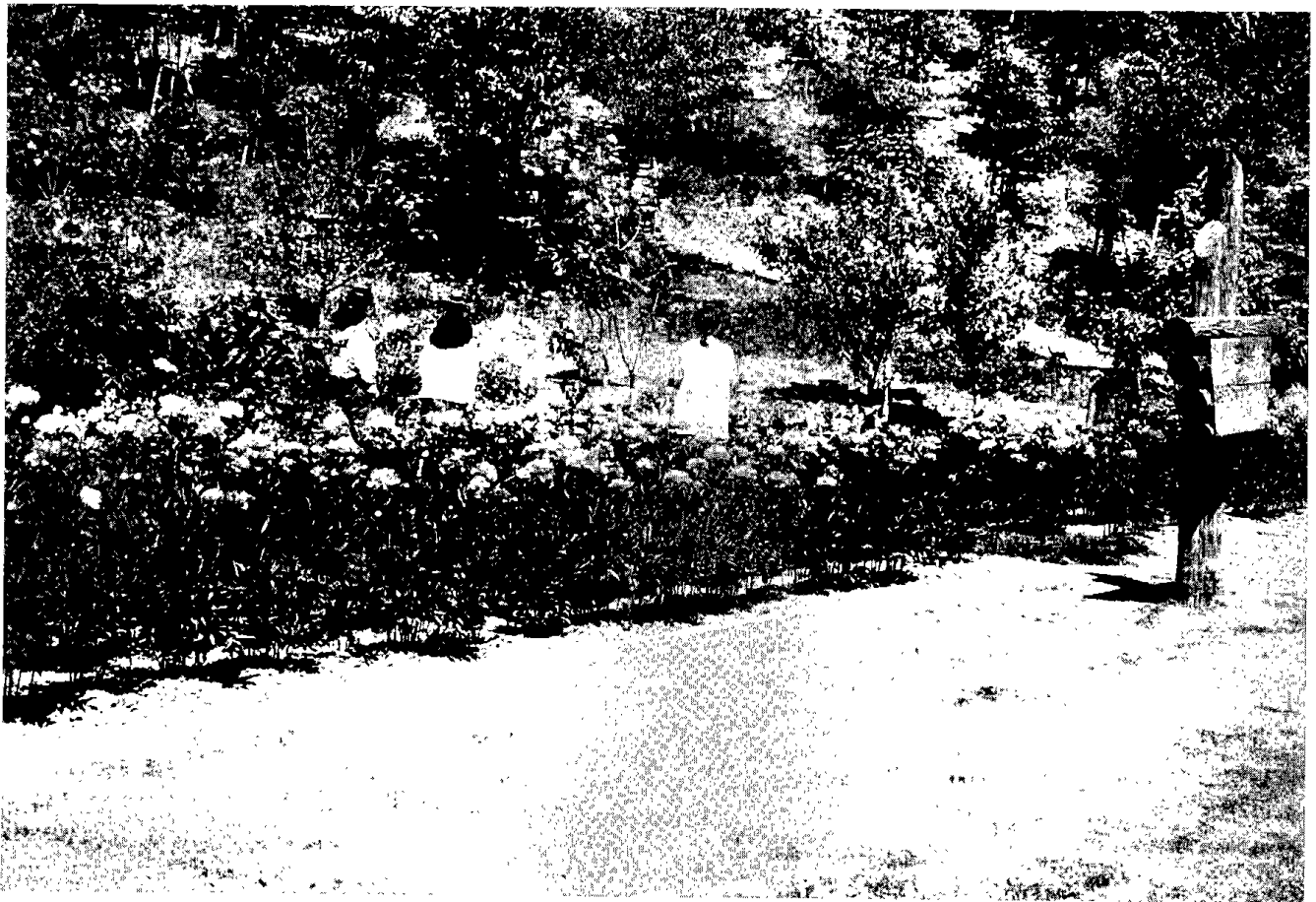


東日薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
 北海道医療大学薬学部同窓会
 印刷所 (株)廣濟堂/札幌営業所

☎ (01332) 3-0301 直通・FAX
 ☎ (01332) 3-1211 大学代表 発行人 山崎 信彦
 札幌市白石区菊水二条1 ☎ (011) 842-5510



目次

教授就任にあたって 和田啓爾教授	2
武智春子教授	3
支部だより ー札幌支部ー	4
新入会員名簿 (24期生)	5
随筆 「ラベンダーの香り (夏)」	6
支部長会議に参加して	7
総会報告	8
総会報告	9
卒後研修のお知らせ	10
編集後記	10

「教授就任にあたって」

衛生化学教室
和田 啓爾



平成12年 8月1日付で薬学部教授を拝命いたしました。当教室の初代教授羽賀正信先生の築きあげられてきた教育方針、研究方針を継承しつつ、自分なりの展望を切り開くために、日夜がんばっております。

私が本学に助手として赴任した昭和57年 4月当時は、学生の皆さんと私の年齢も近く、友達のようなスタンスで勉学に研究にそして学外活動に苦楽を共にした楽しい思い出がたくさんあります。ちょうど6期生のみなさんが4年次のことでした。以後、助手、講師、助教授を経て今日に至るまでのそれぞれのポジションで、いろいろな意味で勉強させていただきました。時の流れは速く、社会の変化も大きいことから、目先の変化だけではなく、将来的な構想も含め臨機応変に行動して行かなくてはならないことを痛感しています。

大学教育ではどうしても理論に基づいた体系的な事柄が主体にならざるをえないわけですが、社会に出て仕事をするとき、大学で得た知識がそのまま役立つと言うことは少ないのが現状です。私の教育・研究分野は衛生化学であり、その対象として食品をテーマにしています。薬学部に所属していて、食品がテーマとして成り立つ薬学とは何か、そしてそれを医療現場で働く皆さんにどう生かしてもらえるのかを考えると、大きな壁に突き当たります。

しかしながら、最近の食品科学研究の進歩は目を見張るものがあります。それは「第3世代の栄養学」とまで言われるほど、従来の栄養学とは異なっています。特に食品の3次機能と呼ばれるいわゆる栄養素以外の成分の生体に及ぼす作用がきわめて多様で、かつ重要な役割をしていることが明らかになりつつあります。それは健康を保つための機能であったり、疾病予防効果であったりします。その一方で、皆さんもご存じのように食品成分と医薬品との相互作用も分子レベルで解析が可能となり、これまで特異体質と言うことで済まされていたかもしれない現象も科学的に解明することが可能になってきました。このような角度からであれば、食品を素材とした薬学教育や研究も成り立つのではないかと、という考えを頼りに特色ある教育や研究を展開しようと考えております。

今自分が置かれている環境で何をすればいいの

かを考えるとき、この基本はやはり大学で学んだ基礎的な知識や考え方であると思います。今問題なのは何なのか、今後どのように変化していくのか、そして今後どのような問題が起こってくる可能性があるのかを考えるには、現在ある知識や能力を総動員して考えを構築しなければなりません。これまでに得た専門知識、人的ネットワーク、書籍やインターネットなどによる情報源などを有効に活用し、客観的な判断のもとに仕事に役立ててもらいたいと思います。また、大学も貴重な情報提供機関です。専門家がたくさんいます。ぜひ活用してください。

今、世界で展開されようとしているさまざまな健康に係わる研究は、従来の壁をうち破ったとてつもないスケールでの研究です。一つの研究室で解明できるという時代ではなくなりつつあります。生体はあらゆる機能が有効的に関連しあって成り立っています。したがって、多くの分野の専門家が集まって多角的に疾病を解明し、克服していく姿勢が重要であると思います。私の研究室に入ってきた学生諸君に「この研究室に壁はありません。疾病の解明、予防、その他医療に係わる知見を得るためならどんな人たちとでも知恵を出し合い、情報交換して協力していくつもりです」と言っております。自己満足することなく、常に前向きで積極的に幅広い視野で外向きの行動をすることを心がけていきたいと思っています。

すでに大勢の大学卒業生が全国各地でご活躍されています。また、今後もどんどん本学の学生が社会へ進出して参ります。どうか、よろしくご指導をお願いいたします。最後に、会員の皆様のみますのでご発展とご健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



「教授就任にあたって」

薬学部 人間基礎科学教室

武 智 春 子



平成13年4月1日付けで薬学部教授を拝命し、2ヶ月が過ぎました。今回の人事は本学に平成14年度から心理科学部が新たに設置されることに伴う教養教室担当教員の増員の必要性から行われたものです。文部省への申請が差し迫っていたため、急に事態が進展し、私としては、話を聞いて一月もしないうちに昇任いたしましたので、最初は戸惑いもありましたが、決まった以上は少しでも本学の御役に立てるように努めたいと思いますので宜しく御願いたします。

これで本学も、薬学部、歯学部及び看護福祉学部に加え心理科学部の4つの学部を擁する大規模校となった訳で、私が薬学部に着任した当初のことを思い浮かべますと感慨もひとしおです。私は本学の開学一年後の昭和50年の4月に薬学部の助手となりました。といってもその当時は校舎はまだ完成しておらず、8月の完成まで北大の薬学部で研究を行ったり、学生実習の御手伝いなどをしながら、早く本校で仕事出来る日を待ちかねていました。それだけに学生さんが移行して来た時はどんな学生さんが来たのだろうと期待しつつ、2階の窓から首を出して一期生の玄関（当時は一階のロビーの横が玄関でした）に入っていくのを見入っていました。そんなところから始まった私の本学での教員生活でしたが、昭和63年には講師となりました。それまでは実習のみの御付き合ひでしたが、授業を受け持ち、講義を通して学生さんと接する別のやりがいも実感しました。授業をしていて、学生さんが真剣に聞いてくれる雰囲気を感じると、充実感を感じましたし、自分だけが空回りしていると思える時は体から力が抜けました。授業はどれだけ講義を聞いて理解し、更に面白いと思ってもらえるかという学生さん達との良い意味での戦い？の様な気がしてそれだけ真剣に取り組まなくてはと思いました。講師を11年間続けた後、平成10年に薬学部から当時の基礎教育部に移動しました。基礎教育部では薬学部ばかりでなく歯学部の授業も担当しました。歯学部の学生に生体有機化学という科目を教えることになりましたが、高校時代化学を全くやっていなかった人から、受験でみっちり勉強した人もいたり、化学の学力差はあまりに大きすぎて大変戸惑いました。歯学部を教えてみて始めて薬学部の学

生さんに対する授業は（化学の基礎ができている人が多くて）化学に関しては楽だったのだなーと実感しました。学生さんたちの気質にもかなりの差があり、両方の学部を教えてみて薬学部の学生さんのことがより見えてきたような気がしました。そういう点が、基礎教育部に移ってきて良かったことの一つかも知れませんが、その基礎教育部ですが、私が移って日も置かぬうちに、「解体」の話がもちあがり、これにはびっくりしましたが、結局平成11年をもって解体し、私は化学の高橋大先生ら7人と共に薬学部の所属となりました。基礎教育部から薬学部に移っても、今のところあまり大きな変化はありませんが、今後は軸足を薬学部につきつつ、広く大学の基礎教育に貢献できるように努めたいと思います。

基礎教育といえば、先日薬学部の新一年生とクラス担任として話す機会があったのですが、高校では生物を全然取っていなかったとか物理を全然やっていなかったと聞き、今の高校教育の在り方にかなり不安を感じました。私の独断かも知れませんが有機化学を理解するためには無機化学も必要ですし、無機化学を理解するためには物理が必要、それを理解するためには数学が必要、それを考えるには哲学が必要だと思います。又、化学が解れば、生物や薬理も解るし、逆にいえばいろんな科目は全部繋がっていて、どれも広く勉強しなければ有機的に物事が理解できないし、何かを創造することも出来ないように思います。ゆとり教育が行われて行く分、今後大学に於ける基礎教育の必要性が高くなると考えられます。薬学部に着任を置くものとして、新入生の化学の学力向上のために努力し、出来るだけ基礎力をつけてもらって専門の先生方にバトンタッチ出来ればと思っています。

基礎教育部に在ると、授業時間数が多かったり、講座配属がないので学生さんと一緒に研究したりできないのが淋しいところですが、少しでも時間を見つけて、これまでやって来た「蛍光試薬の開発」や「光化学反応」などの研究も続けていきたいと思っています。

最後に、会員の皆様の益々の御隆盛と御健勝を御祈り申し上げます。

平成12年度 札幌支部活動報告

平成12年度 札幌支部活動報告

札幌支部 田中稔 泰

札幌支部の活動としては、毎年6月頃に開催される同窓会本部の総会と一緒に支部総会と医療薬学セミナーを開催してきたところであり、本セミナーは講師として本大学の先生にお願いし、それぞれの専門分野におけるご講演を行っていただきました。しかし、これとは別に、札幌支部会員の話し合いの中では、同窓生もそれぞれの職場で、責任的な地位にある会員も多く、また色々な経験も積んできているので、後輩の指導を含めた形で相互情報交換の場として同窓生を講師とした勉強会を実施すべきではないだろうかという意見が出されていた。

これを受け札幌支部役員会において検討した結果、同窓生の主な勤務先は、病院薬剤師、調剤薬局、一般薬局、メーカー等であるので、それぞれの分野で抱える問題点としては異なる点も多いため、それぞれの分野別に行う必要があるのではないかという意見が出され、同窓生によるセミナーに向けて、病院薬剤師、調剤薬局、一般薬局に勤務する卒業生にそれぞれ集まっていたが、今後の方向性について4回の議論を行った。その結果、シンポジウム形式でフリーディスカッションができる会で行うということになった。

第1回目は、調剤薬局に勤務する卒業生を対象とするもので、講演には本学3期卒業生の中井雅智氏にお願いする事になった。中井氏は卒業後、長い間、漢方を中心としたセールスを行われ、その後クリオネ新さっぽろ調剤薬局に勤務されており、薬剤師会関連の厚別地区での勉強会においても講師等をされているということで、今回お願いした。開催日は、平成12年10月19日、演題名は「かかりつけ薬局として選ばれるには」会場は北海道薬事会館で開催した。当日、本セミナーに参加した同窓生は1期から20期までの29名であっ

た。中井氏の講演内容は、問屋での営業経験から見た調剤薬局のあり方と調剤薬局に勤務してからの経験という2面の角度から見た話で、大きく分けて8項目についてお話いただいた。「調剤と監査」では、待ち時間の短縮検討や散剤の監査システムの導入経験について「服薬指導」、「薬歴管理」に関しては、いかに患者さんとのコミュニケーションをとり会話の中から情報収集を得て調剤にかせるか「医療機関との連携」では、医療機関の医師、薬剤師、看護婦、外来事務職員とのコミュニケーション作りと様々な対応状況について、その他、今現在行われている「在庫管理」、「お薬手帳の活用」、「休日当番薬局・営業時間の検討」など経験を踏まえてお話いただいた。その内容1つ1つが本来1つの講演となるような深いものであったが、時間の関係上かなり急ぎ足で1時間程度お話いただいた。講演の後、それぞれの項目について、順番に討論するという形で進められ、会員からの質問に対して、演者のみならず会員が自分たちの経験を話すなどといったフリーディスカッション形式で質疑応答が行われた。会場は皆、同窓生であるということと、人数が約30名ということから、質問や意見はかなり活発に行われ、当初質疑応答は20分程度を予定していたが、1時間を超す白熱したものとなった。

参加した会員からは、勤め先が大きい組織であれば情報も色々入りやすいのだろうが、小さい組織では、実際の業務では、なかなか細かいことまで情報の収集ができないので、このような会をまた開催して欲しいという声もあった。

平成13年度においても、引き続きこのような勉強会を開催し、定期的なものにしたいと考えており、会員の協力を望む所である。



薬剤師国家試験

— 結果報告 —

	受験者	合格者	合格率	全国平均
新卒	115名	104名	90.43%	84.08%
総数	157名	125名	79.62%	81.29%

3月24、25日の両日、第86回薬剤師国家試験が行なわれました。今年度の新卒者合格率は3年連続の第1位をキープすることはできませんでしたが、全国平均を大きく上回る好成績でした。上記の新入会員の皆様が各分野で大いに活躍されることを期待しております。

第22回 北海道医療大学薬学部同窓会総会

平成13年 6月16日(土)札幌ガーデンパレスに於いて第22回総会が開催されました。以下にその内容をご報告致します。会員の皆様には一層のご理解をいただき、同窓会活動にご協力いただきたくお願い申し上げます。

平成12年度事業報告

平成12年 4月1日から平成13年 3月31日まで

1. 理事会の開催(3回)

第1回 4/22、第2回 8/12、第3回 11/25

審議内容

- 1) 総会開催準備
- 2) 平成12年度活動予定、方針について
- 3) 支部長会議開催について
- 4) 新規名簿作成について
- 5) リフレッシュスクールの後援
- 6) その他

2. 講演会の開催

1) 医療薬学セミナー(各支部と協力)

- 5月20日 札幌(札幌支部)(参加54名)
- 5月27日 浦添(沖縄支部)
- 6月18日 長岡(北越支部)
- 9月2日 帯広(帯広支部)
- 9月9日 宇都宮(栃木支部)
- 10月14日 旭川(道北支部)
- 10月2日 青森(青森支部)
- 11月4日 函館(函館支部)
- 11月25日 釧路(釧根支部)

2) 第14回医療薬学公開講座

札幌 11月11日(参加35名)

4. 第21回東日薬総会の開催(5月20日、出席者35名)

5. 第1回薬剤師リフレッシュスクールへの後援

開催日時: 6月10・24日 7月8・22日
(土曜日、14時~17時)

6. 支部長会議の開催(9月16日、出席者15名)

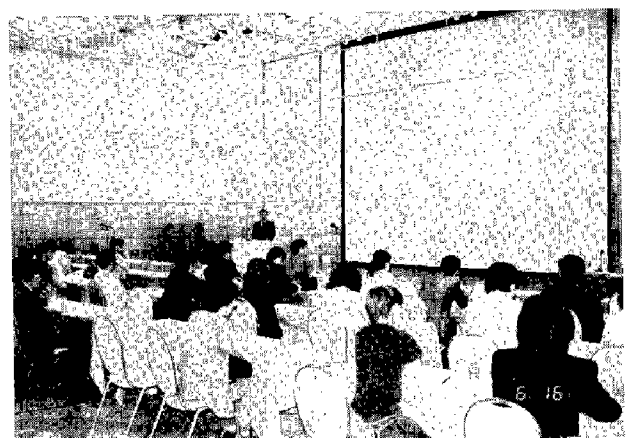
7. 会報の発行(第17号)

8. 本学他同窓会(歯学部、看護学部、専門学校3校)との懇談会

出席者: 山崎会長、田中副会長、中村帯広支部長

9. 謝恩会への山崎会長出席(3月16日、参加者49名)

10. 薬学部同窓会懇親会(平成13年3月28日、ホテル札幌ガーデンパレス)



平成13年度事業計画

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

主な事業計画

1. 理事会の開催

第1回 5/18 (他必要に応じ開催)

審議内容

- 1) 総会開催準備
- 2) 名簿発刊準備
- 3) その他

2. 第22回東日薬総会の開催 (6月16日)

3. 講演会の開催

1) 医療薬学セミナー (各支部と協力)

- 6月16日 札幌 (札幌支部)
- 9月1日 帯広 (帯広支部)
- 9月22日 宇都宮 (栃木支部)
- 9月29日 青森 (青森支部)
- 10月7日 富山 (北越支部)
- 10月13日 水戸 (茨木支部)
- 11月10日 滝川 (道北支部)
- 11月10日 釧路 (根釧支部)
- 11月10日 宜野湾 (沖縄支部)
- 11月15日 函館 (函館支部)

2) 第16回医療薬学公開講座

札幌 10月20日

4. 名簿発刊 (11月)

5. 会報の発行 (第18号/7月頃予定、第19号/冬頃予定)

6. 本学他同窓会との懇談会

7. 卒業生の入会案内

8. 謝恩会出席 (3月中旬)

9. 第2回薬剤師リフレッシュスクールへの後援

開催日時：5月26日、6月9・23日・7月7日
(土曜日、14時～17時)

薬学部同窓会新役員

(平成13年5月から平成15年5月まで)

役職	氏名	卒期
会長	山崎 信彦	2期
副会長	田中 稔泰	3期
副会長	遠藤 泰	4期
副会長	多田 正人	4期
副会長	福田 修司	5期
副会長	浜上 尚也	1期
理事	星野 太郎	1期
理事	堀田 清	3期
理事	馬原礼二郎	4期
理事	嶋 唯男	6期
理事	野地 裕美	8期
理事	村井 毅	13期
理事	斉藤 剛	13期
理事	富樫真実子	14期
理事	飛山 毅	15期
理事	木村 真一	15期
理事	寺戸 睦子	16期
理事	小名木 仁	17期
監査	山下 美紀	18期
監査	日野 綾子	20期

随 筆 「ラベンダーの香り (夏)」

縣 功

6月から7月にかけて、薬草園に200本近くあるラベンダーが紫色の花を咲かせ、芳香が薬草園全体を覆う。このラベンダーは15年ほど前に富良野から取りよせたものであり渡辺さんや宮本さんたちの丹誠こめた手入れによって見事な花をつけ、薬草園をおとずれる人を楽しませてくれる。

毎年6月に本学のお祭り九十九(つくも)祭が開かれる。九十九とは「99%のところを努力しつづけることで、限りなく100%に近づける」ということに由来しているそうだ。皆さんはクラブで、個人で、クラスで等々なんらかの形でかかわった人もいると思う。そして楽しい思い出を持っておられる方が多いと思う。思いっきり青春を発散するのは若いときに特に必要と思う。種々なことをやってみる。そしてその中で自分に最も適しているものを見つけることができれば、大学生活はこの上なく有意義である。そんな人が多数おられると思う。その大学祭の日曜日に薬草園を見る会が開かれる。毎年300人くらいの方が札幌の近郷から集まってきて午前中身近な薬用植物の話のあと、薬草が入ったものを試食してもらい、そのあと薬草園を見てもらっている。多くの人が咲きみだれるハーブ等々の花々に魅了され気分をリフレッシュされているようである。いつも家の中に閉じこもっている人等が太陽の光を浴びすがすがしい山の気の流れる薬草園でのひとときを過ごす。ことは非常に良いことと思う。人間は自然の中の1部であるのだから、皆さんもたまたまに自然に接していただきたい。1999年堀田薬用植物園長と大学のお力で薬草園の裏山に散策路が計画され1部ができていますがあと2年後に完成の予定である。散策路のまわりには貴重な北の植物が自生しており、それを自然のままに見てもらおうという趣向である。皆さんにも見に来ていただきたい。薬草園ではシャクヤクが大輪の赤、白、ピンク等色とりどりの花を咲かせ、またヨーロッパの薬草、いわゆるハーブ等が次々と花を付けている。この時期是非ここを訪れていただきたい。そして自然に接し、学生時代を思い出してその中から次の大きな夢を育てる芽をつかんでほしい。

その頃札幌では8年前から始まった「よさこいソーラン祭」があり、札幌市中元気のよいソーラン節に乗って1チーム50名から100名という大人数の活発な踊りが町中をねり歩く。その活発な踊

りの中に北国の人々のエネルギーが入れられている。本学でもこのお祭りにチームを出し賞に入ったこともある。大学祭のアトラクションでも「よさこいソーラン」があったので見ていると、その踊りは本学の学生かと思うくらい元気である。本学の学生はおとなしいと思っていたし、個人的にいつも見ているとこんな静かな人かと思う人があふれんばかりの元気さで踊っているのではないか。これが本物の学生の姿ではないかと思った。各個人個人が内にこのような爆発しようなエネルギーを持っているのにちがいないと思う。皆さんはその気になれば素晴らしい素地を持っているのだと実感した。皆さんのもっと多くの活躍を期待したい。

祭りは自分を発散させる場でもあり、それによって自分を磨く場でもある。いわゆる遊びなのかも知れない。しかし次のように言った企業のトップがいた。「遊びを知らない人は質の良い仕事ができない」これは本当と思う。遊びに熱中することができれば、仕事にも熱中できるということである。

あるアメフトの監督がこう言っている「選手によく言うんですが、ベストは尽くすもんじゃない、越えるもんやと。ここで戦うしかないという瀬戸際に立たされて、初めて自己認識ができる。またそれを越えることで自分の知らない自分を発見できる。人生観、世界観が変わる」と言っています。

また越路吹雪を皆さんは知っていると思うんですが、歌を謳うのが彼女の仕事、彼女は練習を何回となく行ない、充分すぎるほど練習する。しかし舞台に立つ前の越路吹雪は笑うことのない、1人の神経質なか弱い女性である。しかし舞台の袖からライトを浴びて歌いはじめると、全く異う人となり、あの自信に満ちた、あの力強い彼女になる。聴衆を満足させようと練習にはげんで、はげめば、はげむだけ自分の欠点が見えるようになり舞台にでる前はその心配で神経質になると思う。しかし舞台に立って歌えば今までの練習からの自信が出て素晴らしい歌となって聴衆を魅了するのである。練習こそが大切であると思う皆様方もこれから種々のことにチャレンジされると思う。そのとき十分な準備をしてからチャレンジしていただきたい。

薬草園のホウノキの幅広い葉の間から大きな白い花が咲き、甘ったるい香りがあたりに流れる。その頃トビ、ムクドリ、キジバトが薬草園を訪れる。そしてひとときの短い夏休みが過ぎ秋の学期の幕があく。

支部長会議に参加して

医療法人仁愛会 浦添総合病院 (地域医療支援病院)
 薬剤部 比嘉 保 (沖縄支部長 3期生)

就職状況の地域格差が大きいことが本会議でも問題として取り上げられました。沖縄でも例外ではなく薬剤師不足が深刻化しており、本大学に限らずリターン組みが年々少なくなっているように思えます。特に民間病院や薬剤薬局などは人出不足がマンネリ化している状況です。卒業生の就職について大学の学生情報開示や求人票の配布などが協議され、私たちの受け入れ側の問題も指摘されました。給与などの待遇条件は当然ですが、しっかりと卒業生を育てる環境の整備が必要であるという結論でした。業務内容において魅力ある職場を作り上げていくことが我々現場の薬剤師の義務であり、それを内外にアピールしていくことが

重要であることを今、大学病院から民間病院に移り、現実の問題として私は痛感しております。

さて、もう一つの大きな問題「子弟の入学について」ですが、残念ながらはっきりとした回答が得られませんでした。一定レベルの学力も必要でしょうし、アドミッション・オフィス (AO) 入試も価値はあると思うのですが。

大学の発展において同窓会の発展は不可欠なものです。今後我々支部会としては、医療薬学セミナーをどのようにして盛り上げ、支部を充実させていくのか問題が山積しています。今回の支部長会議にて他支部長の生の意見を聞くことにより今後の支部運営に役立つものだと確信しております。

訃報

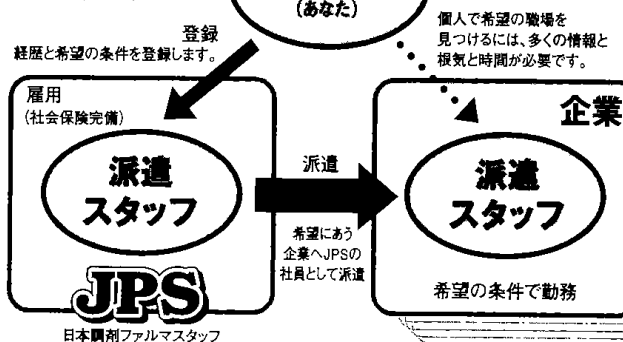
医薬化学教室元教授、北海道医療大学名誉薬草園長の縣功先生が平成13年2月13日に御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



日本調剤ファルマスタッフ株式会社

JPSは薬剤師に特化した人材派遣会社

■JPSの薬剤師派遣システム



薬剤師派遣登録 スタッフ募集!

お気軽にお電話ください。

登録無料

薬剤師の方、これから薬剤師になる方へ

- たくさんの登録企業の中から働く先を選ぶので、自分で仕事を選ぶよりも選択の幅がぐんと広がります。
- 結婚されている方、お子様のいる方も安心!好きな時間、あなたの望む勤務地で働くことも可能です。

薬剤師採用をお考えの方へ

- 採用が難しい薬剤師の方を、必要な時に必要なだけ集めることができます。
- 貴社に代わり「求人・面接・教育」まで一貫して実施。
- 派遣スタッフが受講できる研修制度も充実。

日本調剤ファルマスタッフ:連絡先

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1
 TEL.03-3510-6789 FAX.03-3510-6781
 http://38-8931.com

登録専用
フリー
ダイヤル
(担当H1係)

さあ、やくざい
0120-38-8931

卒後研修のお知らせ 9月以降に行なわれる医療薬学公開講座および医療薬学セミナーをご案内致します。

●第16回 医療薬学公開講座

テーマ 『**薬剤師に求められるコミュニケーション**』

会場：朝日ホール

開講日時	講演会場	演 題 講演内容	講 師
10月20日 (土) 14:00~16:30	KKR札幌 札幌市中央区北4条西5丁目	いま患者が薬剤師に求めること 患者の基本ニーズは「安全・安心・納得」の医療。情報開示とコミュニケーションをキーワードに、患者が求める薬剤師像を伝えたい。	辻本 好子 (ささえあい医療人権センターCOML 代表)
		医療現場でのコミュニケーション ~信頼される医療チームの一員に~ 薬剤師が、その機能をいかんなく発揮できる、すなわち真の意味での医療チームの一員となるには何が必要であろうか。	松原 和夫 (旭川医科大学教授、 附属病院薬剤部長)

■講師略歴

辻本 好子 ●つじもと よしこ：1984年愛知県生まれ。82年に医療問題の市民グループにボランティアとして参加。バイオエシックス(生命倫理)という学問に出会い、「いのち」をめぐる問題に関心を持つ。「インフォームド・コンセント」「患者の自己決定」の問題に、患者の主体的参加の必要を痛感。90年にCOMLをスタート。

松原 和夫 ●まつばら かずお：1955年生まれ。京都大学薬学部製薬化学科卒業。島根県職員、島根医科大学医学部勤務。90-91年米国ロヨラ大学(シカゴ)医学部生化学客員講師。島根医科大学医学部助手、同助教授を経て、98年より旭川医科大学教授、附属病院薬剤部長。

●医療薬学セミナー

開催地	開講日時	講演会場	演 題 講演内容	講 師
帯広	9月1日 (土) 17:00~19:00	ホテル若松 帯広市大通南5条11丁目	豊かな人生を送るために 「豊かな前向きな人生を送るためには」について皆さんと一緒に考えたい。昨年と同様に「鍋」のお話や、今年度完成予定の学舎保安林内の植物たちなどを題材にします。	堀田 清 (本学薬学部助教授・ 薬用植物園園長)
宇都宮	9月1日 (土) 17:00~19:00	ホテル東日本宇都宮 宇都宮市上大曾町492-1	ヒトゲノム、新薬と薬用相互作用をめぐるトピックス シトクロムP450からみ得る相互作用は、SSRIなどの新薬の相互作用にも関連があり事故を防ぐ為にも整理しておくことは大切である。	南 勝 (本学薬学部長・教授)
青森	9月29日 (土) 18:00~20:00	ホテル青森 青森市堤町1-1-23	食と健康を考える 私たちが毎日食べている食べ物(野菜、肉、魚)の中には病気を予防するアイテムが一杯です。スパイス、野菜、鍋まで丸ごとお話しします。	堀田 清 (本学薬学部助教授・ 薬用植物園園長)
富山	10月7日 (日) 14:30~16:30	高志会館 富山市千歳町1-3-1	医療と人権 ~病名の告知と法~ 「癌の告知」をめぐる2つの裁判例をもとに、病名の告知と法について考える。薬剤師の業務とも密接に関わる重要な問題である。	久々湊晴夫 (本学薬学部教授)
水戸	10月13日 (土) 18:00~19:30	三の丸ホテル 水戸市三ノ丸2-1-1	生薬のポリフェノールとがん予防 ポリフェノールががんをはじめ種々の病気の予防に効果があると注目されている。生薬の新しい活用方法について提唱したい。	西部 三省 (本学薬学部教授・ 総合図書館長)
滝川	11月10日 (土) 16:00~18:00	ホテルスエヒロ 滝川市明神町2-2-16	副作用としての嘔吐とその発現機序 医薬品とくに制癌剤の副作用としての悪心・嘔吐の発現機序と、最近開発された新規制吐薬の作用点について解説する。	遠藤 泰 (本学薬学部講師)
釧路	11月10日 (土) 17:00~19:00	釧路パシフィックホテル 釧路市栄町2-6	メディケーションエラーを防ぐための薬剤師の役割 薬剤が関与している医療事故の事例を分析し、薬剤師自身が薬剤過誤を起こさないため、また医療事故を防ぐために薬剤師が何をすべきかを考える。	阪田 正勝 (本学薬学部教授)
宜野湾	11月10日 (土) 18:30~21:00	沖縄ハイツ 宜野湾市真心喜3-28-1	在宅医療における薬剤師の働き 在宅医療にかかわる薬剤師の働きについて、調剤薬局、病院薬局の立場からその実際、問題点について述べる。	関川 彬 (本学薬学部教授)
函館	11月15日 (木) 18:30~20:30	ホテルオークランド 函館市昭和4-34-12	日本の医療の現状と展望 日本の医療・福祉の現状と将来展望について理解を深める。またバイオ技術および情報技術の進歩と医療とのかわりについて展望する。	高田 昌彦 (札幌医療福祉専門学校校長 ・本学名誉教授)

各セミナー終了後には懇親会も開催されます。講師の先生や同窓生と意見を交換することのできる良い機会ですので、積極的にご参加下さい。

編集後記

札幌は例年になく低温続きの夏でしたが、夏の終わりを惜しむ様に暑い日が続いております。

本年2月に縣功先生が急逝されました。白衣に長靴姿でニコニコしながら薬草園に向かって歩いておられる在りし日の縣先生が偲ばれます。縣先生からは、退任のお祝いにお渡しした旅行券を利用されたご旅行や薬草園の四季を題材にした随筆を数編お送りいただきました。いつも私達卒業生のことを気にかけていただいていたことに深く感謝申し上げますと共に縣先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

なお、今回掲載しました「ラベンダーの夏」を含む薬草園の四季を題材にした4編の随筆は平成12年3月にご寄稿いただいたものです。未掲載の随筆「タネの不思議」、「木の上の雪」は次号以降に掲載する予定です。薬草園のラベンダーは今年も紫色の花を見事に咲かせ、私たちを楽しませてくれました。(N)